

編 集 後 記

第125回生涯教育講座から2編の投稿をいただきました。松崎先生の間葉系幹細胞治療の論文は、話題の再生医療の問題点を詳しく述べていただきました。治療が必要な部位に細胞を届けることの困難さがうかがい知れます。森田先生の論文では、食物アレルギーの特殊型について述べられています。花粉抗原に感作されると交差抗原を含有する果物・野菜などを摂取してもアレルギーを発症すること、油断大敵です。

【臨床・研究】では、秦先生の論文では、食事の大切さが実感でき、食育の重要性が示唆されます。田部先生の超音波検査教育の論文では、日々研鑽している研修医の姿が目には浮かびました。2024年から実施される医師の働き方改革でも、研修医は専門技術を習得するためのある程度の長時間労働を許容されるようです。若いうちに研鑽を積み、技術を身につけ、島根県の医療に貢献してほしいものです。貴谷先生の学校医数の研究では、島根県の学校医の過酷さが手に取るように分かります。今年度、厚生労働省は医師多数区域、少数区域を公表しました。島根県は少数区域ではありませんが、このような実態を見ると、厚労省の数字と医師の肌感覚の間にはかなりのギャップがあると思われます。研修に熱心な医療機関が増え、島根県に多数の研修医が残り、医師数が増えればこの問題は解決するのでしょうか。診療科偏在、高度に専門分化しすぎた医療等の問題解決も不可欠ではないかとも思っています。

(S.K)

島根医学編集委員

児玉和夫，貴谷 光，浅野博雄，大居慎治，沖田旺治，
齊藤洋司，佐藤比登美，小林祥泰，井川幹夫，中島健二，
小阪真二

島 根 医 学

令和元年8月31日発行

発行者 島 根 県 医 師 会
出雲市湖陵町
編 集 編集者 児玉和夫
発行所 松江市学園南2丁目3番11号
有限会社 松陽印刷所